



モンゴルの草原から心を知る

松山市立鴨川中学校 3年 木下 春香

日本はモンゴルに対してどのようなイメージを持っているだろうか？私自身、相撲やゲルなどのような一般的なイメージしか持っていなかった。しかし、実際にモンゴルを訪れてみて感じた事、それはモンゴルの方たちが日本を学び、日本に感謝し、日本を心から必要としている事だった。日本語を学べる学校では、子ども達が日本語で挨拶をしてくれ、とても感動した。

ゲルでのホームステイでは、広大な草原に心を奪われた。しかし、そこには深刻な問題も隠されていた。そこでは夜に石炭を使ってストーブを焚くのだが、その煙によって環境汚染が懸念されているのだ。この問題を少しでも改善していこうと、現地のJICA職員の方々が尽力されているのだ。写真で見れば綺麗な景色も、現地を訪れなければ分からない問題がそこにはあったのだ。

モンゴルの方々は口々に「日本には感謝している」と言ってくれた。それは、モンゴルの火力発電所に援助したり、消防署に消防車を何台も寄付したり、と日本からの支援に感謝をしているのだ。私の知らない日本とモンゴルの繋がりがそこにはあった。

この研修を通して私は、知ることは本当に大切だと思った。自分の足で歩き、自分の目で見て確かめる。そこから広がる世界はとても深いものがあった。この経験を生かし、将来世界の人が安心してよりよく暮らせるように尽力していきたいと強く思った。

素晴らしい研修をさせて頂き、本当にありがとうございました。